

いずみさの昔と今 第277回

「くらしと道具」

1月12日(土)よりレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、地域の人びとから寄贈された「くらしの道具」を中心に、市制施行70周年記念冬季企画展「くらしの道具展」を開催します。近代の泉佐野はタマネギをはじめとする作物の栽培や漁業、さらにはタオルの製造業で栄えました。そんな泉佐野の人びとの生活を支えた「くらしの道具」を紹介します。

私たちが普段何気なく使っている道具の中には、あるものは縄文・弥生時代から、あるものは中世、さらに近世を経て現在まで継承されてきたものも多くあります。私たちの身の回りにもある道具たちは、昔の人びとが生み出し、改良を施してきた知恵や工夫の結晶なのです。

今回のいずみさの昔と今では、「火鉢(ひばち)」について紹介します。今では目にする機会が少なくなった火鉢ですが、昭和30年代に石油ストーブが誕生するまで暖をとる道具として広く重宝されてきました。火鉢の歴史は古く、奈良時代から平安時代ににかけて、宮廷や貴族の邸宅

です。すでに火桶(ひおけ)・火櫃(ひびつ)・炭桶・炭櫃(すびつ)と呼ばれる移動可能な暖房器具が使用されており、これが今の火鉢のもとになっているといわれています。はじめは宮廷や貴族などの身分の高い人たちに使われていた火鉢が庶民に広まったのは、鎌倉時代中期から末期ごろだといわれています。かつて使用された火鉢はヒノキやスギ、ケヤキなどの木製のものをはじめ、土製のものなど様々でした。木製火鉢は単純に木をくり抜いた「くり抜き火鉢」や、木の板を組み立てて作り化粧箱の形をした「長火鉢・箱火鉢」などがあり、引き出しのついているものもありました。土製のものは瓦質の「奈良火鉢」と産地の名前前で呼ばれるものや土師質のものがありました。さらに陶磁器製の火鉢は「瀬戸火鉢」ともよばれ、鮮やかな彩色が施されるのを特徴としており、大量生産することができました。

明治の中ごろ以降、炭が容易に手に入れられることから火鉢の使用は一段と多くなります。しかし、昭和30年代に石油ス

トープが登場すると、次第に火鉢からストーブにとってかわり、徐々に姿を消していききました。

今回取り上げた火鉢のほか、当時の人びとの生活を支えた道具を展示する冬季企画展「くらしの道具展」は、1月12日(土)からレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさので開催します。みなさんのご来館をお待ちしています！



▲長火鉢(当館蔵)

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日(祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館)
開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料

消費生活センターだより

見守りリー→

相談受付
午前9時～午後4時30分

相談はお早めにセンターへ!!

南海線「泉佐野」駅前
☎469-2240

ポイントカードにまつわるトラブル

ポイントがゼロになっていた。問い合わせると「最終利用日から1年で失効します。カードの裏面に記載しています」と言われた。

【解説】

様々な店で実施されているポイント制度は、事業者にとっては個人情報収集や既存顧客の囲い込みができます。一方、消費者にとっては貯める楽しみ、使うお得感があります。

しかし、ポイント制度については法律上の決まりがなく、事業者が「規約」でポイント付与の基準、使用方法などを自由に決めることができます。個人経営の店の発行では規約すらないこともあります。

変更・廃止については、普通は予告期間があります。突然、変更・廃止されても「おまけ」と考えられるものは法的に問題がないこともあります。

【アドバイス】

- 規約は、よく読みましょう。
- ポイントは貯めこまず、こまめに使うことが望ましいと思われま。

相談は、

早めに消費生活センターへ

- 【事例1】
4年ほど前に千円を支払ってポイントカードを作った。1回の利用でスタンプ1個押ししてもらえ、10個貯まれば1回無料となる。今まで何回か会員カードのサービスを受けたが、突然打ち切られた。
- 【事例2】
ポイントカードを紛失した。ポイントが貯まっていたので、再発行時に以前のポイントを引き継ぐよう頼んだが、会社の方針でポイントを引き継ぐことはできないと言われた。
- 【事例3】
久しぶりに買い物したら、